

アルミは輸出減少、輸入は増加 国内のスクラップ需要、高まるか

橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

九月前半は、中国国家統計局と中国物流購入連合会が三十一日発表した八月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は前月から〇・三ポイント改善し、五一・七と市場予想を上回ったこと、世界的な景気の回復基調が保たれるとの期待や米フロリダ州を直撃したイルマは十一日、熱帯低気圧に勢力を落として被害が大きくならなかった事などのプラス材料もあったが、七月の米貿易収支の赤字額は前月比〇・三%増の四三六億八、九〇〇万ドルだった事、LME六金属の価格で構成されるLME指数は、六月初旬から九月四日までに二・一%の急上昇となっていることからの利食い売りが出たことなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、九月十五日時点で二・〇六三・五ドル(現物後場買い)と月初価格から三五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半はFRBイエレン議長が、段階的な利上げの継続が必要との認識を示したこと、北朝鮮外相が米トランプ大統領の最近の発言に対し明白な宣戦布告だと述べたことなどのマイナス材料もあったが、米トランプ大統領が法人税率を現行の三五%から二〇%に引き下げる方針を示したこと、十八日のFOMCで金利据え置き、資産縮小が確認された事を好感しLMEアルミ相場はUP、十月一日現在LMEアルミ相場(現物後場)は二、一〇三ドルと後半スタート価格から二九ドルUPしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・〇九一→一一・三四五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比五・六%増の六九万五、七六一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・四%増の三二万八、一七五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・〇%減の八万〇、五六二戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比六三・八%減の九七七、二次合金が八・六%減の一、六一一t、スクラップが九・四%

減の七、〇九一t、アルミ缶が五・三%減の四、八四八t。

輸入

輸入は新地金が前年比三四・八%増の一四万六、九四八t、二次合金が一三・一%増の一〇万三、八八五t、スクラップが三八・五%増の五八四t、合金スクラップは二〇・四%増の三、七四八t。

■前月の国内指標

日本アルミウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・〇%増の一五万五、三七五tと一〇カ月連続プラス。

日本アルミウム合金協会発表のアルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・七%増の五万九、九一一tであった。

■概況

【自動車生産】

八月の四輪車生産台数は六九万五、七六一台で、前年同月比五・六%増となり一二月連続で前年同月を上回った。

輸出は三五万九、五三六台で前年同月比九・九%の増加。

【自動車販売】

九月の国内自動車販売台数(軽除く)は三一万八、一七五台で前年比〇・四%増と、二カ月連続プラス。

このうち、乗用車は二・三%増、貨物は一〇・二%減、バスは二・四%減。

【住宅着工数】

・平成二十九年八月の住宅着工戸数は八万〇、五六二戸で、前年同月比二・〇%減となった。また、季節調整済年率換算値では九四・二万戸(前月比三・二%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減少、分譲住宅は増となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【持家】

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比七・四%減、季節調整値の前月比では四・五%減)。

【貸家】

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比四・九%減、季節調整値の前月比では一・二%減)。(六面へ続く)

(四面より終り)
(分譲住宅)
前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比一二・〇%増、季節調整値の前月比では九・一%減)。

・分譲マンション
前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比三三・七%増)。

・分譲一戸建住宅
前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比〇・八%増)。

【アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績】
生産は前年比一・七%増の五万九、九一tと二カ月連続プラス。出荷は一・一%増の六万一、七二八tと三カ月ぶりプラス。このうち、出荷先別では、鋳物四・三%増、ダイカスト〇・三%増、板三・二%増、押出二・〇%増、鉄鋼四・七%減、合金地金メーカー一・九%減。

【アルミ延・押出品生産量】

日本アルミウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・〇%増の一五万五、三七五tと二カ月連続プラス。このうち、板類は生産が一〇カ月連続でプラス、出荷は六カ月ぶりマイナス。押出類は生産・出荷ともに二〇カ月連続でプラス。

【輸出】アルミ新地金が前年比六三・八%減の九七t。二次合金が八・六%減の一、六一t、スクラップが九・四%減の七、〇九一t、アルミ缶が五・三%減の四、八四八t。

【輸入】アルミ新地金が前年比三四・八%増の一四万六、九四八t、二次合金が三・一%増の一〇万三、八八五t、スクラップが三八・五%増の五八四t、合金スクラップが二〇・四%増の三、七四八t。

【見通し】

・自動車は生産が五・六%増。国内販売台数が前年比〇・四%増。生産が一〇カ月連続プラス、販売が二カ月連続プラス。

一〇カ月ぶりの販売マイナスから微増ではあるが、二カ月連続プラスが今後も続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二・〇%減と二カ月連続マイナス。下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。

・アルミ延・押出品生産量は、板類・押出生産合計が前年比二・〇%増の一五万五、三七五tと、一〇カ月連続プラス。今後も期待。

・アルミウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比一・七%増の五万九、九一tと、二カ月連続プラス。出荷は一・一%増の六万一、七二八tと、三カ月ぶりプラス。

生産量は二カ月連続プラス、微増ではある

が二次合金出荷「三カ月ぶりプラスに。今後の動向に注目。

・アルミ輸出は自動車生産の好調を受けて全種減少、アルミ缶も韓国輸出の減少から。

・アルミ輸入は内需の好調を受けて増加

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、自動車生産などが好調だが、ここ最近のLME価格の高止まりを受けて市中玉は不足気味ではないか。

需要面に関しては自動車の生産は好調、販売も二カ月連続増加し、ここ最近の地金の高止まりを受けてメーカーが積極的に使用してきた輸入塊が割高のものとなり、スクラップ需要が高まるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は十月十八日から開催される中国共産党大会に向けての経済情勢、米政府の税制改革の進展に左右される。

中国共産党大会に関しては、環境問題、規制も重要な課題となっており、環境規制が厳しくなる中、十月の一カ月間は北京周辺の天津、山西省、内モンゴル、河北省では鉄鋼はじめ素材産業は全面的に生産停止、という発令がなされているとの報もあり、金属の供給が減少するのではないかと。

米税制改革問題に関しては、トランプ政権は九月中旬に議会委員会に税制改革案を提示し、十月に下院、十一月に上院を通過するシナリオを描く。ただ、審議日程に余裕はなく、越年の可能性もあり。

それらを踏まえた十月のアルミ価格は、中国共産党大会中に鉄鋼をはじめ素材産業は全面的に生産停止や環境及び輸入規制が現状もしくは更に厳しくなり、米税制改革がねじれた場合、先月一段高値の二、二〇〇ドルを予測。いずれの場合も二、一〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月一段安値の二、〇〇〇ドル。

為替は、米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。

米税制改革に関してはスケジュールに余裕がなく、年越しの可能性が高いのではないかと。

北朝鮮情勢に関しては話し合いに進展がみられず更に悪化が進むのではないかと。

それらを踏まえ予測は、米税制改革問題に向けての審議が予定通り進み、北朝鮮情勢で悪化がなかった場合、円安値は九月後半安値の一、三円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合、同高値の一、〇円台を予測。

スクラップ購入価格に関しては五、一〇円高程度と予測している。